

正徳寺 寺報『報』第3号をお届けいたします。

昨年は東日本大震災があり、たいへんな一年でした。また、親鸞聖人の七百五十回御遠忌と法然上人八百回御遠忌が勤修され、節目の年ともなりました。

昨年の三月よりみなさまにお願いしておりました「東日本大震災義援金」ですが、四月までの義援金(97万1049円)を第二次義援金として日本赤十字社に送金いたしました。その後の五月から十二月いっぱいまでいただいた義援金(31万7087円)を、総代会で協議の結果、住職の参加しているボランティア団体である「真宗大谷派東京教区災害ボランティア支援金」に送金いたしました。

昨年の十二月に福島に行つてまいりました。被災者はいまだ慣れない仮設住宅での生活と、津波や原発被害の沿岸部からはなれ、雪の多い山間部での生活に戸惑つておられました。普段の生活に戻るまでお手伝いできればと思います。

今回の寺報は、皆さまからよくいただく質問や、最近いただいた新しい質問に答えてみたいと思います。気になる点などございましたら、お気軽にお寺までお尋ねください。

仏事Q&A

○質問:こんど故人の○回忌をおつとめしたく思います。お盛物は何をお持ちしたらいいですか?

答え:お盛物は、故人のお好きだったものやお花をお持ちになる方が多くいらつしやいます。ただし、生臭モノといわれる、肉や魚の加工品(缶詰など)はお供えできませんので、ご遠慮いただけたらと思います。

○質問:先日、故人の○回忌をおつとめ戴きました。法事は何回忌までおつとめすればよろしいでしょうか?

答え:真宗でのおつとめの本義は、先祖供養ではございません。法事をご縁として、お浄土にいかれた故人に導かれ、現在のわれわれの生活を再確認する場になります。なさる方は、三十七回忌・五十回忌までおつとめをなさる方が多くいらつしやいます。

○質問:家人が亡くなりました。高齢でもありお参りにいらつしやる人も少ないので、お通夜を省いてもいいですか?

答え:お亡くなりになられたとのこと、寂しいことと思います。お参りくださる人のことを考えてお通夜を省きたいというお気持ちお察しいたします。お通夜の本義を考えますと、亡くなった方がそのお宅であげる最後の仏前でのおつとめを、かわりに残された者がおつとめする意味がございます。お寺からお参りにまいりますのでご自宅で親族のみでおつとめされてはいかがでしょうか。みなさまへのお別れは、翌日の葬儀ならびに告別式でなされればよいかと思ひます。ただ、きちんとお別れできないと心残りされる方もいらつしやいます。お別れの場としてお葬儀は大切に思ひます。

住職ツイッター @syaku\_rikun

日常の疑問などにお応えしております。下らないことも多くつぶやいておりますが、よろしかったらご覧ください。

# 平成二十四年（2012年）年回表

(年忌)	(死去年)
一周忌	平成二十三年
三回忌	平成二十二年
七回忌	平成十八年
十三回忌	平成十二年
十七回忌	平成八年
二十三回忌	平成二年
二十七回忌	昭和六十一年
三十三回忌	昭和五十五年
三十七回忌	昭和五十一年
四十三回忌	昭和四十五年
四十七回忌	昭和四十一年
五十回忌	昭和三十八年
百回忌	大正二年

## ★春彼岸

3月17(土)～23日(金)



▼ご法事をおつとめになる方は

(1) まず寺に都合をお問い合わせください。

とくに土曜日・日曜日などは混み合いますので、お早めにご連絡ください。

(2) ご法事参加の人数を、ご法事の一週間前までにお知らせください。

お願い：お葬儀をおつとめになる方は、日程が決まる前にお寺にご連絡ください。他の方のお約束が入っており、先に決められた日程ではお受けできない場合がございます。

よろしくお願いいたします。

## ★声明会（お経の練習会）

毎月最終土曜日 午後三時～四時半  
要予約（急な法務等で変更あり）

参加費 500円/回

稽古本「眞宗大谷派勤行集」（赤本）

450円

次回は三月三十一日(土)

ご参加される方は、前もってご連絡ください。

電話 03(3471)3938

[shoutoku-ji@pal.dti.ne.jp](mailto:shoutoku-ji@pal.dti.ne.jp)

■当寺の宗旨は 眞宗大谷派です。

■ご本尊は阿弥陀如来です。

■宗祖は親鸞聖人です。

■京都駅前通りの烏丸七条にある

眞宗本廟（東本願寺）を本山とします。

■教えの要点は、

阿弥陀如来のすべての人を救うという

ご本願を信じて、南無阿弥陀仏と称えて、

感謝報恩の生活をおくることにあります。